

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401201		
法人名	医療法人社団 かみゆのかわ医院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム かみゆのかわ		
所在地	函館市上湯川町38番14号		
自己評価作成日	平成22年12月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を利用した定員5名の家庭的な雰囲気のホームです。本人の想いを尊重し家族との協力のもと家に戻れる相談を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401201&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年1月31日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定員、職員共に5名である小規模な当事業所は、医療法人が運営しており、看護師が常勤し、深夜往診も可能となっていることから、利用者、家族の一番の安心につながっている。また、満3年間で2名のターミナルケアを経験したことにより、医師と利用者家族、職員が、終末期に向けたチームとして支援を行う体制が整っている。居室は8畳間のほかに、収納スペースを取り付けており、各室にナースコールを設置している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、スタッフは理念を共有し、実践に向けて取り組めるよう努めている	地域に密着した事業所を目指しながら、管理者職員は、利用者の立場に立ったサービスを提供するため、日々理念の実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時など町会の人に声かけし、参加して頂いている	地域のコーラスボランティアの来訪時には、近隣の住民も共に楽しんだり、散歩時には気軽に地域の人々と話しを交わしている。また、花や果物のおすそ分けなどもあり、地域とのつながりが年々深まりつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の社会見学の勉強会や実習生の受け入れをしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマを決め、それぞれの立場から意見をもらえるよう、努めている	平成23年に入り、1月20日に運営推進会議を開催している。会議での話し合いの結果、地域からのアプローチを待つだけでなく、事業所側からも積極的に働きかけをするきっかけとして、地域の小学校に雑巾を贈ることになった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談、指導を受け、連携を取っている	運営推進会議以外でも、市町村福祉課の担当者と常に情報の交換を行い、協力関係を密にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しており、取り組んでいる	管理者と職員は、研修、ミーティングを通して身体拘束の弊害について良く理解し、利用者の人権を守ることがケアの基本と捉え、積極的に取り組んでいる。また、職員が札幌研修に出席する予定がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員も理解しており、していない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は入居者の権利擁護に関する知識を持つ事が出来るように研修会への参加を促し、積極的に知識を吸収出来るよう努めている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明し、理解と納得を頂いている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情があったときは、管理者を含めたスタッフ会議などで話し合いをし、結論を出している	運営推進会議にも家族代表が積極的に出席している。要望として出された課題は、スタッフ会議で検討し、速やかに実施している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の意見、提案を聞くよう心掛け、取り入れている	管理者は、利用者と日常的に密接に関わっている職員の意見を重視し、スタッフ会議での意見や提案が最大限運営に活かされるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が努力している事を認め、一人ひとりの長所を伸ばせるよう努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	誰でも参加できる研修会、勉強会に関しては全職員に告知しており希望する職員には参加できるよう調整を行っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修への参加を呼び掛け、出来るだけ多くの同業者と交流を持ち、情報、知識交換を行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努めると共に自身の状況に応じた対応をし不安、希望の把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には数回にわたり不安を傾聴し家族の問題、困難事項を受け止めるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を必要としているかを見極め話し合いを行いながら希望に沿えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、炊事などを一緒に行ったり時には歌などで楽しんだりと日常生活を共に支え合える関係作りを築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には入居者の思いを理解して頂く為に各入居者に沿った提案をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が気軽に面会に来られ過ごされたり通院していた病院や行きつけの美容室などにも出掛けられる事が出来るよう支援している	在宅時よりの長い付き合いがある関係を継続するために、来訪する友人や親戚の人達を大いに歓迎している。馴染みの美容院や通院などへの送迎はもちろん、友人の法事や墓参りなどへの送迎も、家族に代わり支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間、食事などの席は入居者同士、話しやすい環境作りを配慮し、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方、家族にも行事には声かけをしたり協力をして頂いている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、表情などから本人の思いに沿った過ごし方が出来るよう考慮している。どのように暮らすか、家族とも話し合っている	利用者のそれまでの生活習慣やリズムなど、家族から情報を得ながら、本人本位の暮らし方を検討している。趣味などは積極的に支援し、本人の意向に沿えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も家族と連携を取り、日々の生活に繋げるよう努力している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の暮らしや心身状態は毎日の申し送りや介護記録にて職員が把握し、努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを取り入れ、一番適した支援が出来るよう努めている。職員の意見も考慮し、作成している	一人ひとりの介護計画目標から達成度等、職員、家族、医師で支援経過を共有できている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を毎日記入し、気付いた状態の変化などは毎日の申し送りで全職員に伝えている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて外出の援助、外泊対応など、可能な限りの支援を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて対応している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、通院する医療機関はご本人やご家族の希望に応じ、支援している	家族と相談の上、かかりつけ医を現在の協力医に決めたことにより、医師と利用者家族の関係がより良好なものとなっている。他科への受診等は家族や本人の希望を大切にし、専従の看護師が把握し、適切な医療を受けられるよう支援している。月1回主治医の診察を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、24時間体制で、いつでも相談できる状態にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供、出来るだけ見舞うようにしている。家族とも情報交換をしながら速やかな退院の支援に結びつけている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、ターミナルケアについては契約時にご家族と方針を決定し、その後も必要時、関係者と話し合い方針を共有している	今までに2度ターミナルケアを経験していることにより、家族や医師、職員は終末期に向けて積極的に話し合っている。当事業所の母体が医療法人であり、医師と看護師による夜間往診の体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習で学んでいる施設独自の緊急対応マニュアルを用意している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている	年2回、消防署協力のもと、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。避難場所の設定や台所のLPガスをオール電化に設備を変更するなど、全職員で火事を出さない努力をしている。また、毛布など備蓄は完備されている。しかし、訓練に際して地域住民の参加協力までには至っていない。	地域住民の消防団員や、女性会(婦人会)などの人達にも運営推進会議に参加してもらうなど、地域ぐるみでの防災体制のさらなる強化を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライド、プライバシーを守り、配慮した対応に努めている	排泄時は、さりげない誘導でプライドを守るよう努めている。特に年長者への敬意を込めた言葉遣いをするよう、管理者と職員で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見や希望が表現できるよう声かけを行い、自己決定しやすい支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて希望や意向に沿った支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んで頂き、好みに合わせてお洒落を楽しんで頂くよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理は一人ひとりの力に合わせて楽しく行えるよう支援している。片付けは各自それぞれ行っている	利用者と相談して作る献立は、バラエティに富み、利用者の健康を考慮し、優しい味付けになっている。また、外食や弁当食もある。調理や片付けを利用者の能力に合わせて行い、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取、状況を毎日チェック表に記録し、情報を共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来ない入居者は職員と一緒にいき、対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄間隔やパターンの把握、サインを見極めて対応する事で気持ち良く排泄できるよう心掛けている	排泄チェック表に一人ひとりの記録を記入しており、職員はパターンを把握し、さりげない誘導に徹している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品の摂取や食事内容などを考慮し、運動量を検討し実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけを行い希望をとり、入浴を行っている。入浴が苦手な方も強制せず週2回以上入浴して頂けるよう、支援している	週2～3回を目安としているが、希望に合わせた入浴となっている。入浴を拒否する場合も、無理強いはせず、入浴が楽しいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズム、希望を尊重しつつ、声かけを行い、ご本人に合わせて就寝準備に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーで確認できるようにしている。医師の指示に従い、服薬時には本人に手渡し、服薬を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は生活歴を把握しており、個々に合った家事作業やレクリエーションを提供し、その人らしい生活ができるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先のベンチで日光浴をしたり天気の良い日には散歩に出掛けられるよう支援している。家族と出掛ける機会を作ってもらえるよう、来所時を利用し相談、報告をしている。	南向きの大きな窓のサンルームがあり、冬期でも陽が差しただけで暖かく、周辺が一望できる展望台にもなっている。夏は貸切タクシーで函館見物や家族と一緒に外出している。好天時には毎日散歩、日光浴を行い、五感刺激のための外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに合った状況でお金を持っている。家族が了解し、ホームで管理している入居者もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が入居者と家族のやりとりを取り持つ事により、いつでも連絡できるよう努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり良く、暖房設備、採光など明るく落ち着いた環境である。季節ごとの飾り付けにも工夫している	室内は暖かく、強い日差しをカーテンで調節している。利用者は、編み物、読書、ぬり絵などを楽しむなど、居心地の良く過している。壁には利用者の作品、外出の折の写真等を展示している。時季になると利用者の家族から贈呈されたお雛様も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりや談話室など、くつろげるスペースを設けている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者、ご家族の意見を取り入れ、居室の場所、馴染みの家具の配置などを決めている	家具の配置等は、利用者や家族の意見を取り入れている。全室にパネルヒーターとナースコールを完備し、大きな収納スペースにはすべての品々が納まり、約8畳の居室は明るく、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、物品庫と書いた紙を各扉に貼り、混乱を防いでいる		